



看護学科

丸山 優 准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

老年看護実践

入院治療、要介護高齢者、回復

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=125maru>

要介護高齢者の入院治療時および治療後の回復支援

研 究 概 要

要介護高齢者の入院治療に際して、「動けなくなった」「認知症が進んだようだ」という言葉を聞きます。もともと予備能力が低い要介護高齢者は、入院に至った疾患の影響だけでなく、入院治療に伴う安静によって心身に様々な弊害が起こります。

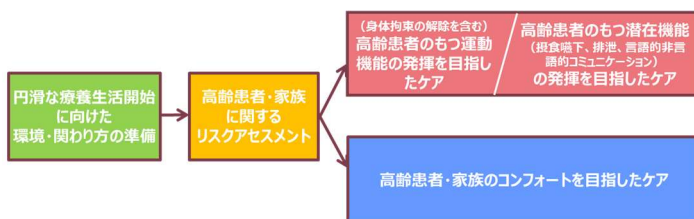
すべて元通りに回復することは不可能ですが、適切なケアの提供によって弊害を減らし、その人らしい生活の継続につなげられます。病院や介護保険施設で働く看護職にとっては自明の理ですが、その実現には効果の見えにくさ、安静保持や事故予防との兼ね合い、組織的に取り組む必要性など様々な困難が存在します。これらの課題をクリアすべく研究に取り組んでいます。

研 究 紹 介

1. 急性期治療後の後方支援施設への転入時ケア実践モデルの開発

急性期病床から医療療養病床に移行した高齢患者に適用する「転入時ケア実践モデル」を開発しました。（右図、URL参照）

医療療養病床での実践に基づいて、モデルを構築しましたが、地域包括ケア病棟や介護保険施設等、急性期治療後の高齢者を受け入れる施設に適用できる可能性があると考えています。モデルに基づいた実践による成果を明らかにすることに取り組んでいます。



<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006414071>

2. 急性期病院における高齢患者のmobility（動き）促進に向けた実践プロトコルの開発

急性期治療のために入院する高齢者のmobilityを促進する病棟看護実践プロトコルを開発しています。現在進行中です。

身体可動性の保持や回復は生活の継続に重要な要素ですが、入院治療を受ける高齢者は不動に陥りやすく、看護師は安静保持や事故予防の観点から積極的な実践となりにくい現状があります。本研究では、病棟看護師の日々のmobilityの積極的な把握によるアセスメントから実践に結びつけるプロトコルを開発し、ADLの維持回復、転倒やルート類抜去等の事故の減少、身体拘束の最小化を図ることを目指しています。

講 座 テ ー マ 紹 介

- 要介護高齢者に関わる病院、介護保険施設の専門職者（看護職・介護職他）を対象とした講座…病院・施設の現状に合わせて演習を組み合わせた講座の実施も可能です。

アピールポイントなど

要介護高齢者にとって生活のターニングポイントとなる急性疾患への罹患や入院治療の機会におけるケア方法を考える機会になればと思います。